

授業科目 小児健康障害援助演習

【担当教員名】 松井由美子	対象学年	3	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

健康問題・障害を持つ子どもには、病態や発達段階に応じた特徴的な看護が求められる。ここでは健康問題・障害を持つ子どもとその家族の特徴や看護を概観し、子どものQOLサポーターとしての援助者の役割についても学習する。子ども特有の症状のアセスメントや代表的な疾患についての事例学習を通して、看護診断プロセスを学習する。健康問題を持つ子どもとその家族の権利がどうすれば守られるのか、また生き生きと生活していくためにはどのような援助が必要とされるのか、QOLサポートのあり方をグループワークを通して深めていく。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 健康問題・障害を持つ子どもの特徴がのべられる。
2. 子どもに見られる主な症状をアセスメントできる
3. 特徴的な子どもの疾患の病態生理・診断・治療について述べられる。
4. 健康問題を持つ子どもとその家族のアセスメントを行ない、看護診断プロセスを学習する。
5. それぞれの疾患を持つ子どものQOLについて考えることができる。
6. 子どもとその家族の権利について理解し、小児医療に携わるさまざまな職種の人々との連携について考えることができる。
7. 自主的に事例学習に参加することにより、関連する知識を整理し、問題解決のためにグループに貢献できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	授業概要とグループ課題の設定		講義
2	子どもの健康問題・障害の特徴とその看護	1	講義
3	子どもに見られる主な症状と看護	2	講義
4	子どもの看護診断プロセス	4	講義
5	子どものQOLと障害児	5	講義(外来講師)
6	グループ演習(発表準備)	7	グループワーク
7	事例とQOLサポート演習 ①先天異常、新生児・低出生体重児の疾患	1 5 7	グループワーク・発表
8	事例とQOLサポート演習 ②慢性腎疾患、喘息		グループワーク・発表
9	事例とQOLサポート演習 ③循環器疾患、血液・腫瘍疾患		グループワーク・発表
10	事例とQOLサポート演習 ④糖尿病、内分泌疾患		グループワーク・発表
11	事例とQOLサポート演習 ⑤神経疾患、心身症		グループワーク・発表
12	事例とQOLサポート演習 ⑥感染症		グループワーク・発表
13	事例とQOLサポート演習 ⑦事故・外傷、子どもの虐待		グループワーク・発表
14	小児のトータルケア まとめ		講義

【使用図書】

<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格・その他>

教科書 (必ず購入する書籍)	系統看護学講座23 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 奈良間美保他 3200円
参考書	小児の診療とQOL 西村昂三編著 中外医学社 2000年 3090円 子どもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義監修 講談社 2002年 4200円 NANDA看護診断 定義と分類 2007-2008 日本看護診断学会監訳 医学書院 2007年
その他の資料	授業で紹介

【評価方法】

出席(20%)、プレゼンテーション(60%)、レポート(20%)

【履修上の留意点】

看護学
科
専
門